

紙芝居の演じ方

堀田 穰

①

まず画をじっくり見て下さい。すぐれた紙芝居は画だけで物語の流れが理解できるように描いています。順番に画をめくりながら頭の中にこの物語はどんなものかを組立てていきます。登場人物がどんな気持ちで、どんな言葉をおうとしているのかを想像するのです。

②

指定された順番が、頭の中の物語の流れを阻害するようでしたら、画の順番を変えてみて下さい。画の順番や脚本はおもしろく演じられるために検討され、変更されてもかまわないのです。

③

紙芝居舞台（枠）をお持ちの方はそこに画を入れて少し離れて見てみましょう。遠く離れてもはっきりとわかる画が紙芝居の画で

す。もし離れて見たとき理解しにくい画面があれば、そこは言葉でていねいに補わなければなりません。

- ④ 頭の中で物語と画の流れを一致させてから、はじめて脚本を見ます。すると自分の考えていた言葉と食い違っている所があるかもしれない。あらためてどちらが適切か検討しましょう。

- ⑤ 脚本は万人向けということで、標準語にし、わかりにくい所に言葉を多めに説明しています。しかし、演じるあなたは、むしろ印刷された脚本の言葉を削らなくては演じにくいでしょう。その地方の言葉で力強く語るほうが圧倒的に観客の心に届くはずです。

- ⑥ 画が語っているところは言葉にしないで良いのです。例えばウサギがご飯を食べている場面で「ぴよんたはご飯を食べていました」

というのは不要です。見ればわかるからです。それよりぴよんたの心の中の「くまさんはどうしてるかなあ、心配だなあ」と言うつぶやきを言葉に出す方がリアリティがあります。

- ① 画と脚本の検討をここまでしておけば、あなたは紙芝居舞台の横に立って、自らも紙芝居の画を見（そうすると観客も画に視線を集中します）、その画によって自分の言葉が自然に出てきて（そのとき観客は視線を演者に移します）、自然な芝居を演者も観客も楽しむことができます。

- ② ①の括弧内に書いたことは「視線誘導」と言う技術です。紙芝居を演じる者は観客がどこを見ているのかのコントロールまでをしなくてはいけないのです。これができると次の場面への「抜き」方もうまくなります。

- ③ それでもはじめての場合、先輩の演

者の紙芝居を見せてもらうのが一番の勉強になります。どうか一度、紙芝居の本当の面白さをあじわってください。

㊦

紙芝居舞台はとても大切です。紙芝居は小さくても芝居ですから舞台が必要なので。教室なら黒板がバックに、それ以外なら暗幕などの黒い布をバックにすると画が良く見えます。

㊧

演者は観客に呼びかけるように、語りかけるようにはっきりと声を出してください。裏の脚本をそのまま読むときも舞台の裏に隠れないで、抜いた面の裏面を舞台の斜め後ろに置いて読んでください。演者は舞台の斜め横に立つことになるので、観客には声が良く聞こえ、演者からも観客の顔が良く見えます。紙芝居には何よりもこの対面が大事なのです。